

## 平成20年度各種調査方法・調査内容について(案)

## 【共通】

調査方法	調査対象者	調査数	調査項目
1. 利用者のニーズ調査			
(1) アンケート調査 (大型路線バス、小型路線バス、一般タクシー、リムジンバス)	高齢者 障害者 ※3地域程度で実施	300程度	(ア) 共通事項 ・回答者属性 (性別、年齢、身体状況、車いす、シルバーカー及び杖等歩行補助具の使用状況) ・普段の鉄道やバスの利用状況(利用回数等) ・公共交通機関がない場合の普段の移動手段 ・公共交通機関を利用しない(できない)理由 ・車両乗降時の改善点 ・立ち座り(又は固定)時の改善点 ・乗降中または車内でのヒヤリ体験 ・車両、車内設備について改善が必要な点 (イ) 大型路線バス・小型路線バスに関する事項 ・普段利用しているバス車両のタイプ ・車内で立っている時につかまる場所(つり革の必要性、つり革の高さ) ・車外表示器の見えやすさ(行き先が見えづらく乗車できなかった経験の有無等) ・優先席の向きの好み ・最前部の荷物置き場の利用状況 (ウ) 一般タクシーに関する事項 ・普段のタクシー利用状況(頻度、距離、用途、車両の種類等) ・乗降のしやすさ(開口大きさ、段差及びその高さ、乗務員による補助等) ・スライドドアと開閉式とどちらがよいと感じるか、その理由 ・室内高はどの程度の高さが必要か(通常のタクシー、ハイエースなどを提示) (エ) リムジンバスに関する事項 ・利用状況 (利用経験、頻度、利用しようとしてできなかった経験など) ・利用できない場合の代替交通手段とそのコスト及び予約方法 ・降車地のバリアフリー化に関する意見 ・座席の位置(前部、中央部、後部)

<p>(2)アンケート調査 (一般タクシー)</p>	<p>介助者</p>	<p>50程度</p>	<p>上記(ア)及び(ウ)に加え、 ・介助者及び障害者の着座位置、広さ等</p>
<p>(3)ヒアリング調査 (乗合タクシー) (※改造事例調査と併せて実施)</p>	<p>高齢者 障害者 ※バリアフリー基準に適合した乗合タクシーを導入している地域</p>	<p>50程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者属性 (性別、年齢、身体状況、車いす、シルバーカー及び杖等歩行補助具の使用状況)</li> <li>・普段の利用状況(頻度、距離、用途等)</li> <li>・車両乗降時の改善点(段差、補助ステップの奥行き、手すり等)</li> <li>・立ち座り(又は固定)時の改善点(室内高さ、通路幅等)</li> <li>・現行の座席とベンチシートタイプの座席の好み、その理由</li> <li>・乗降中または車内でのヒヤリ体験</li> <li>・車両、車内設備について改善が必要な点</li> <li>・改造にあたってのベース車の好み(写真、サイズ等を提示)</li> </ul>

【大型路線バス、小型路線バス】

調査方法	調査対象者	調査数	調査項目
2. 既存車両の実態調査			
(1)車内映像の取得・分析	<p>同一地域で走行する 「後部段差のノンステップバス」、 「後部スロープのノンステップバス」、 「後部フラットのツーステップバス」 における乗客</p> <p>※乗客が非常に多い系統や時間を可能な限り含める。 ※雨の日、道路の起伏のある系統を可能なかぎり含める。</p>	3日程度測定 ／台	<p>・3種類のバスによる乗客の挙動の差違 (段差付近における乗客の挙動、乗員可能数)</p>
(2)ヒアリング調査	上記の車両を運行する事業者、運転手	同上	上記に加え、 ・整備性の差違
3. 標準仕様・認定基準の見直しに関する調査			
アンケート調査	乗合バス事業者	450程度	・現行の標準仕様・認定基準について、見直しを要望する内容及び要望理由
4. 標準仕様の効果評価			
ヒアリング調査	バス製造メーカー	4社	<p>・車両価格の推移 ・標準仕様・認定基準の項目毎のバスの製造工程の削減内容、製造費の削減内容</p>

【ハイエース・キャラバン・コミュータークラス】

調査方法	調査対象者	調査数	調査項目
5. 改造事例調査			
(1)アンケート調査	乗合タクシー事業者	300程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー基準に適合するために改造を行った車両の所有の有無</li> <li>・上記の車両の車名、型式</li> <li>・上記の車両の改造内容</li> <li>・上記の車両の車両価格及び改造価格</li> <li>・上記の車両の改造業者</li> </ul>
(2)ヒアリング調査	アンケート調査結果を踏まえ、バリアフリー基準適合のために改造した事業者	10程度	・同上

【一般タクシー】

調査方法	調査対象者	目標回答数	調査項目
6. 事業者のニーズ調査			
(1)アンケート調査	タクシー事業者、乗務員	120程度	<p>(事業者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の概要(規模、所有車両数、福祉タクシー数、車いすのまま乗車できる車両数)</li> <li>・車いす使用者の利用実態、要望</li> <li>・UD化に求める仕様(車両サイズ、燃料、乗車定員、車いすの固定位置・固定方法・乗降方法、車両形状(セダン型、ミニバン型など))</li> <li>・FFとFRでの車両の整備性</li> <li>・車両価格</li> </ul> <p>(乗務員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗務員の活動内容(障害者が乗客の場合、どのような手助けを行っているか。)</li> <li>・改善要望事項</li> <li>・障害者(車椅子使用者、視聴覚不自由者、肢体不自由者等)に必要な車両の条件(事業者・乗務員共通)</li> <li>・スライドドアと開閉式とどちらがよいと感じるか、その理由</li> <li>・室内高はどの程度の高さが必要か(通常のタクシー、ハイエースなどを提示)</li> <li>・UD化車両の導入に向けた課題</li> <li>・UD車両の利用促進策(例:乗降場所の設置)、将来的なUD車両活用策(例:過疎地での相乗り等)</li> </ul>
(2)ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー事業者</li> <li>・乗務員</li> </ul> ※3地域程度で実施	5程度	上記に同じ。
(3)ヒアリング調査	ロンドンタクシーの導入事業者、乗務員	2～3程度	上記に加え、 ・導入理由

【リムジンバス】

調査方法	調査対象者	目標回答数	調査項目
7. 事業者のニーズ調査			
(1)アンケート調査	リムジンバスを運行している事業者 (国際空港、国内空港)	30程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行実態(利用者数、車両の型式、荷室の状況、混雑する季節、時間帯、路線等)</li> <li>・車いす使用者の利用意向、現在の対応方法等</li> <li>・降車地(停留所)のバリアフリー化状況</li> <li>・リフト付き車両の導入意向</li> <li>・リフト付き車両の導入に向けての要望事項(リフトの設置位置等)</li> </ul>
(2)ヒアリング調査 実態調査	リムジンバスを運行している事業者 (国際空港、国内空港) ※夏、冬に分けて調査	10程度	上記に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客の意向</li> <li>・乗務員の意向</li> </ul>
8. 航空会社等への実態調査			
(1)ヒアリング調査	航空会社	5程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす使用者等障害者の空港毎の利用者数(国内空港、国際空港)</li> <li>・航空機の離発着における車いす利用者への対応状況、課題</li> </ul>
(2)ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉タクシーで送迎している事業者</li> <li>・NPO等福祉有償運送で送迎している団体</li> </ul>	5程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港送迎の実態(利用可能な空港、車両タイプ、運賃)</li> </ul>